

【公衆衛生医師になるまで～現在の職場】

平成 30 年 12 月に横浜市役所に入庁しました。

入庁前は、小児科医師として臨床に従事し、乳幼児健診や、養育支援が必要な御家庭との関わりの中で、健康を左右する社会的要因について意識するようになりました。その後、米国の公衆衛生大学院で母子保健分野を中心に公衆衛生学を学び、帰国後に横浜市に入庁しました。

私の現在の配属先はこども青少年局です。先輩の行政医師、歯科医師や、保健師、歯科衛生士、事務職など、多職種のチームのなかで、協力をしながら楽しく仕事をしています。

【現在の業務内容】

こども青少年局は、不妊、妊娠～出産～産後、乳幼児～思春期と、女性のライフコースの様々な場面での支援を行います。仕事内容も多岐にわたり、事業や研修等の計画、周知、実施、評価、各関係機関との調整などを行います。

また、各区福祉保健センターでの乳幼児健康診査にも、診察医として従事します。臨床医の時に培った医療的な知識、経験、多職種で連携する姿勢などを、十分に生かせる職場です。また、学会発表の機会や、社会医学系専門医取得に向けての先輩行政医師からのサポートなど、医師としての学術的な成長を支援する土壌もあります。

【職場環境やライフワークバランスについて】

私は三人の子どもたちを育てながら働いています。現在の職場は育児への理解がとてもあり、子どもたちとの時間も大切に、ライフワークバランスのとれた生活を送っています。

【最後に】

これからは市役所、区福祉保健センター等で、様々な経験を積みながら、市民のお役に立てるように行政医師として研鑽を積みたいと考えています。

